

# 発刊のごあいさつ

加古川市人権啓発推進員協議会

会長 浜田 時子



市民への同和教育の啓発をめざし、1974（昭和 49）年に「加古川市同和教育推進員設置に関する条例」が公布施行されました。条例により同和教育推進員（現人権啓発推進員）として 100 名が市長より委嘱され、市推員としての組織的活動（現加古川市人権啓発推進員協議会）が始まりました。そして、本年度（2023 年）、本協議会は発足 50 周年という記念すべき節目の年を迎えました。

協議会では、先人たちが同和問題をはじめとする様々な人権課題の解消に向け、たゆまぬ努力で歩んできた活動を記録に残しておきたいという思いと、差別のない社会づくりに携わっていく私たちの今後の指針としたいという願いを込めて、この度、50 周年記念誌『明日をひらく』を発刊することにしました。

これまでの半世紀を振り返れば、多くの市推員が自己研修に取り組み、人権啓発のリーダーとして、人を大切にする実践活動や啓発活動を積み重ねてきました。その成果として、市民の人権に対する意識と理解は確実に高まっています。

しかしながら、少子高齢化、グローバル化、情報社会の急速な進展にともない、一人一人の価値観やライフスタイルの多様化が進み、人権に関わる課題も複雑化しています。さらに、近年では新型コロナウイルス感染症拡大に伴う医療従事者や感染者等への誹謗中傷、LGBTQ+ といった性のあり方への無理解な言動などが新たな人権問題として表出しています。多様な考え方を認め合い、私たち一人一人が人権課題を自分ごととして学ぶ啓発活動がますます重要になってきています。

私たち市推員の活動は、お互いの人権を守り、差別のない明るいまちづくりを推進することです。そのための自己研修は欠かすことができません。協議会では、2023 年度『明日をひらく人権のつどい』を 50 周年記念講演会として開催しました。講師に大本山須磨寺寺務長 小池陽人さんをお迎えし、様々な人々と支え合い、心豊かに生きる社会づくりへの示唆をいただきました。社会のあり方は時代とともに変わりますが、決して変わってはいけないものが人権尊重の精神であり、人を大切にする心です。

本協議会では、今後も市民一人一人の人権が尊重される人権文化あふれるまちづくりに向けて、同和教育から得た学びである「人を大切にする心」を家庭、地域へと広げ、根づかせていこうと考えています。

今後とも皆さまのご支援とご協力をお願い申しあげ、発刊のご挨拶にかえさせていただきます。